



第10号の発刊によせて

学 長 岡 田 政 敏

紀要第10号が発刊の運びとなりました。1981年度の創刊以来、号を重ねて第10号に至ったものであり、御同慶にたえません。

凡そ教育に研究は不可欠であります。大学における研究と教育は、車の両輪であり、両々相まって始めて全き得ると言って過言ではありません。その意味において、研究成果の発表機関誌である「紀要」の持つ意義と役割は、まことに大きいと言わなければなりません。紀要創刊号は、このことを深く認識された、当時の学長川上亀義先生（現名誉教授、顧問）の甚大な御努力により、かねてからの念願であった、本学独自の研究発表機関誌として発行されました。

創刊号が発刊されてから10年、多数の研究論文を寄せられた教職員はもとより、発刊のため御助力をいただいた学園長先生、理事長先生さらには短大協助会、また、編集委員長、副委員長として実際の労をお取りいただいた西村明久教授、鶴藤鹿忠教授をはじめ歴代委員の先生方に深甚なる謝意を捧げる次第であります。

創刊当初、危惧された投稿論文数も杞憂に終り、毎回、多くの論文が寄せられました。特に新進気鋭の若い先生方から数多くの投稿があり、誌面の都合で割愛せざるを得ないことが、しばしばであると聞きます。これは、本学教職員が、日頃から研鑽を積み、研究と教育の両輪を全うされている結果であり、よろこばしい限りであります。

紀要創刊10周年、記念すべき第10号の発刊に当り、所感の一端を述べてお祝いすると共に、学内における研究活動の一層の高まりと本紀要の益々の充実、発展を願ってやみません。

1990. 12. 25